



左官用土の研修 (京都)

会報

全国文化財壁技術保存会

第 16 号

平成二十八(二〇一六)年三月二〇日発行
 編集 全国文化財壁技術保存会
 発行 愛知県江南市力長町 大当寺二二八
 事務局
 TEL (〇五八七) 五九一八〇〇〇

会長 佐藤治男



会報十六号発刊に当たり一言
 申し上げます。

初級研修者の皆さんは、熱心に受講していただいています。また受講希望者も増え、嬉しい悲鳴を上げています。

中級研修も厳しくやっております、優秀な技能者が育っていると自負しているところです。これらの方々が現場で指導する立場にあり、また皆さん非常に熱心に

仕事に取り組んでおられます。

このような状況となり、研修の指導者として喜んでおり、嬉しい次第です。

左官道具も、兵庫県三木市の鋳鍛冶さんが、二人の後継者を養成しておられます。有難いことです。当分の間は、道具の方は大丈夫だと思っています。

一方各地において、材料の基となる壁土を採取する人がなくなり困っています。私の住む京都においては、生産者が三軒しかありません。そのうちの軒は、中塗りおよび瓦葺き材料を生産していますが、条例に違反することでの廃業の危機になっております。

文化財の保存工事に携わる我々は、本物を後世に伝承することが最も重要でありますので、地方の土を使っているのは残せませんので、非常に困っています。

今後は、京都府及び京都市を

はじめ関係する諸機関にお願いし、考えられる最善の指導を受けたと思っています。

副会長 安達保信



本年度も事業計画通り、諸行事を活発に運営させて頂きました事は、関係皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますと共に、同慶に存じます。

さて最近、各地に顕著に見られるようになった問題があります。それは、在来の天然素材の土である下塗材料や上塗材料の産出減や種類の減少が目立つ事です。原因として考えられるのは、製造業者の廃業で工事量減による材料の使用量減のために

採算が合わない場合や、上塗粘土の枯渇等があげられます。壁技術保存会として将来を目指してどんな取組をすべきか、大きな課題がのしかかってきました。何とか国の御支援を得て、製造業の業務継続を保護されたく願うものです。

一方、我々会員も応分の支援を覚悟する段階に到っているかとも考えます。建物修理は、施工技術と材料確保が車の両輪で、どちらが欠けても成り立ちません。保存会の使命は益々重要になります。

伝承技能者の育成と材料の保持や使用工具の確保で、製造業者と密に連携を保ち、日本の大切な文化遺産を後世に伝える責務が重要であると考えています。

第23期(平成27年度)総会

平成27年5月10日、京都市で

第23期定期総会を開催しました。来賓には、公益財団法人全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長の後藤佐雅夫様、京都府教育庁指導部文化財保護課課長の鶴岡典慶様、本会顧問の上田耕三様にご出席を頂きました。

まず「伝承者養成技術研修会中級研修受講修了者」8名に、終了証の授与を行いました。引き続き、平成26年度の事業報告及び収支報告、27年度の事業計画及び収支予算案の審議を行い、原案のとおり承認されました。



総会の開催



研修生 修了証授与



左官(日本壁)伝承者 養成技術研修会(中級)

保存会主催の伝承者養成技術研修会、基礎講座・普通講座の受講修了者及び技能認定者を対象に、文化財保存現場の長を育てることを目的として創設している「伝承者養成技術研修会(中級研修)」を、平成27年6月26日から28日の3日間、開講しました。

荒木孝行さん、今成辰夫さん、太田勝之さん、大場卓さん、勝木巖さん、木谷直充さん、笹原剛さん、柴田正樹さん、清水達朗さん、原慶介さん、原田正志さん、11名の研修生により行いました。

高品正行先生による「各地での左官技法例と施工上留意の点」、持田武夫先生による「文化財施工技術について」、後藤佐雅夫先生による「文化財建造

物の壁について」、江面嗣人先生による「文化財修理の制度と手法」の講義の後、筆記試験を行いました。そして、後藤玉樹先生の案内により、二条城を見学しました。



講義



螺鈿壁の見本



二条城修理現場見学



講義



体験会

日本の技 体験フェア

文化庁が主催する選定保存技術公開事業「日本の技体験フェア」が、平成27年9月12・13日、島根県出雲市「大社文化プレイスうらら館」で開催されました。

本会は、活動状況のパネルや左官材料・道具などの展示を行うとともに、社寺建造物美術協議会ほかの保存団体と協同して「匠の技を結集した壁掛け作り」の体験会を行いました。

左官(日本壁)伝承者養成 技術研修会(基礎講座)

文化財壁技術の継承を図るため

「左官(日本壁) 伝承者養成研修会(基礎講座)」を、8名の研修生で行いました。前期は平成27年8月24日～29日に、日本城郭研究センター(姫路市)において「文化財・左官仕事の心得(佐藤会長)」「文化財建造物の修理(村上先生)」「姫路城の修理と漆喰(上田先生)」「三和土と版築について(高品先生)」「左官の歴史・規範術(持田先生)」「日本の壁(安達副会長)」の講義、そして村田姫路市立城郭研究室長の案内で、姫路城の見学を行いました。

次に、三木市の鋳製造(宮谷製作所)、堺市の紡製造所(北正商店)を見学しました。

京都に会場を移し、京都市文化財建造物保存技術センターにて

「文化財建造物保存修理とその手法(鶴岡先生)」の講義を受けた後「元離宮二条城東大手門修理現場」の見学をし、下地竹(杉田竹材店)の見学をしました。

次に、大津市の津田左官工業所に会場を移し「土間三和土や版築の実技(安達・津田・浅原先生)」を行い、前期の研修を終えました。

後期研修は、10月5日～10日に行いました。京都において「文化財保護における技術者の心構え(江面先生)」「伝統建築の造形(西澤先生)」の講義を受けた後「左官用の土(濱橋・中内先生)」の見学をしました。

さらに会場を滋賀県に移し「中近世社寺建築の宝庫・近江(池野先生)」「穴太衆(栗田先生)」「楽々園玄宮の見学(北川先生)」「彦根城天守閣・博物館の見学(後藤先生)」「彦根城馬屋の見学(清水先生)」の後、津田

左官工業所において「木舞掻き(藤居・津田先生)」の実技を行い、後期研修を終えました。



鋳製作所見学



前期研修会 講義



版築 実技



竹材見学



前期研修会 研修生



三和土 実技



壁土採取場の見学



後期研修会 講義



彦根城馬屋修理現場見学



木舞掻き



後期研修会 研修生



彦根城

姫路城漆喰塗り体験会

姫路城の太天守修理が平成27年3月に完了し見学が再開され、日々国内外から大勢の皆さんが来城されています。これを機に、主要な修理内容でした、外部壁面の漆喰塗りと屋根面の漆喰塗りを紹介し、伝統左官技術の一端に触れていただきたく、保存会と姫路市の共催事業として体験会を開催しました。

9月27日、姫路城三の丸広場において、平壁塗りと、屋根目地漆喰塗りを、保存会会員の指導により希望者に体験をしていただきました。また道具の展示も行いました。



研修を終えて 平成27年度研修生の感想

◆上床 匡史

前期・後期を通して印象に残っているのは、前期の苅見学と後期の木舞掻きです。

前期の苅見学では、麻苅のメリット・デメリットを知ることができました。色々な種類の苅があり、今では見られない苅もあったのですが、左官で必要不可欠なものなので、すごく勉強になりました。中でも苅の量の違いによってここまで強度が変わるのかと衝撃を受けました。

後期の木舞掻きの実技では、色々な木舞の掻き方を学ぶことができました。千鳥掻は普段から使うのですが、大壁用の男結びや大和掻は初めての経験でした。男結びは難しく簡単に覚える事ができなかったのですが、

大壁の下げ縄としても使えるので必死に覚えしました。そして竹をへぐことも初めてやったのですが、これも難しく最初は全然2つにすることができませんでした。しかし最後にはコツをつかみ、2つにすることができるようになったので良かったです。

前期・後期を通してすごく勉強になりました。講師の方々ありがとうございました。

(中島左官(株))

◆大橋 光

この度は伝承者養成技術研修会の基礎講座に参加させて頂き、ありがとうございました。

前期研修同様、左官職人として姿勢や、考え方は再度勉強させてもらいました。文化財を保護する目的やその方法などは工事に携わるたびに思い返し、教えて頂いたことを伝統技術者として守っていききたいと思います。

また、前期研修と異なり、現場見学や実習が多く、現場見学ではいろいろな左官工事の進め

方やおさめ方を見せて頂くことができ、参考になりました。特に、彦根城馬屋工事現場での軒

先垂木の塗籠波形漆喰の中塗は、左官職人の丁寧な仕事を見ることで、今後施工する機会があればぜひ参考にしたいと思いました。実習では真壁・大壁・薄壁の竹小舞掻きでしたが、特に大壁ではいろいろな小舞や下げ縄の方法を教えて頂きました。その中でも下げ縄男結びは今後施工する機会も多いと思います。ぜひ反復し習得したいと思います。

最後になりましたがご指導くださった壁技術保存会の役員や講師の皆様、貴重な講義がありありがとうございました。また、一緒に研修に参加した研修生との交流も大切に、今回の研修で教えて頂いたことを今後の仕事

に生かせるよう努めていきたいと思っています。

(中島左官(株))

◆杉本 雄志

指導してもらっていて気づくことは、同じような街並みでどこも同じように便利な暮らしを求める現代とは真逆にある地域性が本来の左官らしさだと思いました。文化財を修復保存する技術というと、凄く偉く聞こえてしまいます。しかし、昔は建物を建てるなら地元の職人が地元で建てるのが普通だったはず。人や材料や地域性、歴史、文化財も含めた歴史を尊重すると、文化財を修復保存する技術は凄く当たり前なこと、失われつつある今の現状は寂しいことだと言えるように思います。しかしこの伝統が失われる現状は、多数の人間が無意識の中で臨んだ結果なんだと思う。

人間が文化財を作ったんだから失わせるのも人間なんだろう。現実はどうどん変化していき世界が進歩していく。そんな中で本質を考えるっていうことは、私にはとても難しいことです。昔は無かったモノがあつて、昔から存在したモノがない。外国の文化も混ざって、もう昔の価値観で物事を語っても通じないように思います。ではなぜ文化財を修復保存していくのかと考えると、私は歴史と伝統にはこれから人間が生きていくための目印みたいな価値があるという風に考えます。そういう意味を持たないと、文化財もただのボロい建物だし、伝統技術の左官だって時代遅れの技術だと言われても仕方ないと思います。しかし合理性などでは語れない、そういう部分が人間には必要だと思っています。将来、日本の文化ってなんだろう？って考える時

期に、何も資料がなくて歴史の痕跡が無くなったらどんな風になるだろうか、と考えると保存会の先生方に聞いた話も指導してもらった技術も、とても価値のあるものだと思えます。

でも現実には、文化財以外で左官らしさを維持するのは難しく、一般の建物で左官の占める割合はどんどん減っています。

実生活の経済から切り離された文化財保存は、伝統技術が伝統らしく本来の姿で存在出来る素晴らしい仕事だと心から思えました。

(㈲安達左官店)

◆竹内 一司

この度は研修会(基礎講座)に参加させていただき、本当にありがとうございました。この研修期間は、様々な学びの時間を持つことが出来、非常に有意義でした。

特に前期では、文化財に関わる者の心構えとして、材料やその技術など、常に本物を意識して仕事をすること、そして文化財保存修理の基本三原則をもとに仕事が行なわれていることを知りました。また文化財保護は人（日本人）づくりであり、その文化財に触れていくことが日本人としての精神を高める。その為には、その文化財が本物でなくてはならず、その本物の文化財を保護・保存していくには、それに関わる職人（技術者）が本物で、一流の技術を持った者でなくてはならないと学びました。

私もこれから左官技術を益々磨くと共に、一流の文化財に積極的に触れ、文化的・精神的にも向上していく努力をしなければならぬと思います。

改めまして、佐藤会長をはじめ講師・スタッフの皆様には本当に世話になり感謝申し上げます。またこの研修期間を共に過ごし交流

◆ 深井 浩昭

（株山協組）

自分の業としてしている仕事は文化を残すという仕事に直接に結び付ける様に勉強が出来る良い機会がこの全国文化財壁技術保存会の研修であり、又それに参加出来る好機に恵まれた事、講義や見学はもとより、会長をはじめとした諸先輩方々の直接の指導が聞けた事、そして研修生達との友好的な出会いがまた身になっていくと思います。次の研修会での再会が楽しみです。自分でがんばって行きたいと思っています。

この会に送り出してくれた自社の吉村興業にも感謝したいと思います。

（吉村興業(株)）

◆ 藤本 健一郎

この度は、研修会に参加させて頂き、文化財に携わる者としての姿勢や心得など学ばせて頂きました。日頃から意識を高めて職人として精神向上に努力していきたいと思っています。

実技では、三和土や版築、中でも小舞掻きは初めて経験させて頂き、竹割り・編み方・結び方など興味深かったです。この研修で得た事を生かして、今後の仕事に取り組んでいきたいと思っています。

研修会前期・後期とお世話になりました、佐藤会長をはじめとする講師の方々、事務局の方々有難うございました。

（原左官工芸）

◆ 丸橋 優樹

今回、壁技術保存会の研修会に参加させて頂き、ありがとうございました。

前期・後期を通して、各講師の方の講義は文化財を修復する職人としての心構えや、仕事に対する姿勢など、改めて考えさせられる内容でした。技術を磨き、知識を深めるだけではだめだと気づかされました。

各県でのお城や現場の見学では、講師の方や役員の方と一緒に行動する事で、普段では分からない事や感じる事の出来ない事を経験させてもらい、また違った回線で見える事が出来ました。

各材料屋さんの見学では材料に対する考え方や仕事に対する熱い思いを聞く事で良い刺激になりました。これからも材料を大切に使い、お互い協力しながら仕事をやる必要があると思いました。

各実習や全体を通し、会長さんをはじめ役員の方々に熱心に教えて頂きありがとうございました。少しでもこれからの仕事に役立てられるように頑張っていきたいです。

思います。

(株) しくい浅原)

◆横井川 武志

姫路から始まり滋賀県大津市で終了した約2週間の研修会で、最初から最後までとても勉強になる研修でした。色々な先生方の話も大変興味があり、昔一線でされていた方、今も一線で行われている方、すべての話に興味があり重みがありました。また、色々な道具材料を作っている所の見学をさせてもらったり、実際に作業されている現場を見たりと充実した内容でした。

一番良かったのは二条城の見学で、荒壁をめぐり竹下地の状態までこそげを終わられていました。中の竹はまだしっかりとして縄もまだしっかりと残ったままで、くくり方、下地の作り方を昔のまま見学出来ました。竹の切った旬が良かったり、壁を

つける時季や乾燥期間などしっかりと知った知識と、技術があったからこそ残った仕事だと思えます。今回見学したように、自分たちの仕事がいづまでも残る、ほんまもんを使ったほんまものの仕事を残していきたいと改めて感じました。

最後になりましたがお世話になった先生方、一緒に受けたみなさん、ありがとうございました。

(左官業佐藤)

事務局より

本年度も皆様のご協力により、無事にすべての行事を終えることができました。佐藤会長をはじめ役員、会員および関係者の皆様方には大変お世話になり、ありがとうございます。また、研修会の講義をお引き受け下さいました講師の方々にも、心よ

り御礼申し上げます。

さて、来年度は普通講座と中級研修(実技)を実施いたします。参加資格をお持ちの方には順次ご連絡申し上げます。またとない研修の機会ですので、皆様ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ是非ご参加ください。

来年度も、伝統壁技術の保存と後継者育成のため、当会事業にご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(事務局)

編集だより

会報の発行にあたり、原稿を執筆いただきました皆様方に御礼申し上げます。

今号では再開できました、本会と姫路市(姫路市立城郭研究室)との共催事業「漆喰塗り体験会」の様子を掲載しています。

本会の啓発事業の一つとして、続けられれば良いと思っております。表紙には、「左官用の土」

について、研修会の模様を掲載いたしました。文化財左官材料の確保は待ったなしの状況で、大変重要な課題であると考えています。研修生の皆さんからは、貴重な感想を寄せていただきました。また、会長、副会長からのメッセージなど、多様な思いや情報を寄せていただきました。

事務局の浅野、港様にはデータ提供・校正等、ご尽力を頂きましたことに、改めまして御礼申し上げます。

(編集担当・保存会顧問)

上田 耕三
事務局 中嶋 正雄



会 員 名 簿

	会 員 名	住 所	事業所名等
正 会 員	佐 藤 治 男	京都市左京区下鴨南茶ノ木町23-4	左 官 業 佐 藤
	安 達 保 信	京都市下京区花屋町通り間の町西入る天神町411-2	(有) 安 達 左 官 店
	中 嶋 正 雄	愛知県江南市力長町大当寺128	中 嶋 左 官 (株)
	田 代 益 市	京都市下京区猪熊通り塩小路下る上夷町165	(有) 田 代 千 治 店
	石 田 均	香川県さぬき市大川町富田中2147	石 田 左 官 工 業
	小 林 錦四郎	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2132-17	小 林 左 官 店
	津 田 誠 一	滋賀県大津市下阪本1丁目20-22	(有) 津田左官工業所
	山 脇 一 夫	兵庫県姫路市飯田1-24	(株) 山 脇 組
	浅 原 雄 三	京都市山科区大宅沢町185	(株) しっくい浅原
	片 田 儀 斎	京都市上京区西洞院通中立売下る菊屋町256	片田儀斎営業所
	本 田 俊 之	大阪府寝屋川市高柳2丁目43-13	本田左官工業所
	松 本 勉	高知県安芸市井ノ口乙 1202-3	(有) 左 官 松 本 組
	阿 嶋 一 浩	東京都葛飾区青戸8丁目19-11	(株) あじま左官工芸
	小 迫 傳	鹿児島県出水郡長島町蔵之元3246の1	小 迫 左 官
	小 林 常 司	京都市中京区東洞院蛸薬師下る元竹田町639-11	左 司
準 会 員	足 立 三喜男	兵庫県三木市緑が丘町東1-3-4	足 立 組
	石 動 信 明	石川県金沢市神田1丁目31番1号	(株) イ ス ル ギ
	桑 路 丸 幸	兵庫県神崎郡市川町沢115-2	桑 路 建 塗 (株)
	木 津 恵 雄	京都市東山区古門前通り大和大路東入る二丁目三吉町344	木 津 工 業 所
	加 藤 正 幸	三重県伊賀市東高倉2380-11	しゃかん かとう屋
	太 田 勝 之	香川県三豊市豊中町笠田笠岡3156-3	太 田 左 官
	原 健 一	和歌山県和歌山市湊御殿2丁目6	原 左 官 工 藝
	吉 村 誠	東京都中野区上鷲宮4丁目10番6号	吉 村 興 業 (株)
	原 田 正 一	山形県山形市大字中野423-1	原田左官工業所
	川 越 一 弘	熊本県熊本市東区戸島町920番地6	(株) カ ワ ゴ 工
賛 助 会 員	中 内 庸 司	京都市上京区浄福寺中立売上る東西俵屋町157	中 内 建 材 店
	宮 谷 邦 夫	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘35番地の69	宮 谷 製 作 所
	村 檜 太 郎	栃木県佐野市宮下町1番10号	村檜石灰工業(株)
	北 野 一 成	大阪府堺市中区深井北町104-2	(株) 北 正 商 店
	吉 田 厚 子	千葉県いすみ市岩船196	(株) 吉田鉄五郎商店
	濱 橋 秀 三	京都市伏見区深草大亀谷大山町77	(株) 浜 橋 組 建 材